



JUNIOR RED CROSS

私たちの青少年赤十字

気づき、
考え、
実行する。



自他の生命と健康を大切にする。
人間として社会のため、
人のためにつくす責任を自覚し、
実行する。
広く世界の青少年を知り、
仲良く助け合う精神を養う。



青少年赤十字のはじまり

第一次世界大戦の時、戦場となったヨーロッパで苦しむ多くの人々を励ますために、アメリカやカナダ、オーストラリア、イタリアの学校の先生と生徒が、学校で作った作文やプレゼントなどを赤十字を通じて送りました。このことがきっかけとなり青少年赤十字が生まれました。

大戦後、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）が作られ、国境を越えた子どもたちの活動をヒントに、赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、一九二二年に各国赤十字社の中に青少年赤十字が創設されました。

日本の青少年赤十字は、一九二二年に滋賀県の守山小学校で生まれた「少年赤十字」から数えて一〇〇年以上の長い歴史をもっています。

赤十字を教材に「生きる力」を育てる

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加することを通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的とした事業です。幼稚園、保育所、小・中・高等学校、特別支援学校等の中に組織されており、学校・幼稚園の先生や保育所の保育士が指導者となります。学校や園は、それぞれの教育・保育方針に基づいて自主的に青少年赤十字を採用し、実態に即して計画、実践することになっています。日本赤十字社では、青少年赤十字の活動のための資料や希望する加盟校の教員、児童・生徒向けの研修の案内を出しますが、強制力はなく、どのように活用するか、何を実践するかはそれぞれの学校や園の自由裁量となっております。

青少年赤十字では、その目的を達成し、心の豊かな人間性や自己教育力を育成するため、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げています。また、児童・生徒が自主的で、自律した態度を養うために、「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げています。新学習指導要領では、「生きる力」を教育の柱に掲げ、それを「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」と位置付けました。青少年赤十字の自主自律の精神を養い、主体的に行動できる力を養う様々な指導方法、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」を柱とする実践活動は生きる力を養う上で大いに役立つことと思われま



青少年赤十字の 実践目標

健康・安全

命と健康を大切にする

奉 仕

人間として社会のため、人のために
つくす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、なかよく
助け合う精神を養う

青少年赤十字の 態度目標

気づき

身近な問題を発見する

考 え

問題解決のための道筋や方法を探る

実行する

活動に取り組み、評価と反省を次へ
活かす

具体的な活動例

- ボランティア活動や学校内外の美化活動
- 救急法等の講習の受講
- あいさつ運動やノーチャイム運動
- 海外赤十字メンバーとの交流
- リーダーシップ・トレーニング・センターへの参加



青少年赤十字に加盟し、指導方法を取り入れてみませんか？

学校教育で求められている「生きる力」は
青少年赤十字がめざす態度目標と同じです。

学校教育
では

| | | |
|---|--|--|
| 1 | <p>自主的で自律した子どもを育てます。 青少年赤十字の態度目標「気づき」「考え」「実行する」は、自主的・自律的な人間の形成に結びつきます。</p> | <p>人権・道徳教育の基本となります。</p> |
| 2 | <p>ボランティア・サービス（奉仕活動＝V・S活動）による問題解決力を育てます。 自分の利益を求めない自発的な奉仕活動（「ニーズの発見」「課題解決の準備・計画」「実行」「反省」）により、様々な問題を解決していく力を育てます。</p> | <p>体験的活動・奉仕的活動が重視されています。</p> |
| 3 | <p>先見を重視し、自己決定力を育てます。 先を見通して考え、自分の態度を決定する力を育てます。「先見の時間」や「5分前行動」「注意深い生活態度」を大切にします。</p> | <p>見通しを持って計画的に学習や生活をすることは「キャリア教育」にもつながります。</p> |
| 4 | <p>指示のない自発的な生活を目指します。 他人に指示や命令をされず、自ら考え、学び、生活する力を育てます。「合図のない生活」などともいいます。</p> | <p>自己決定力や自己責任を育てます。</p> |
| 5 | <p>指導者は「待ちの姿勢」を大切にします。 自ら考え、課題を解決していくためには子ども自身がまず「気づく」ことにより意欲を高めることが重要です。指導者は注意深く見守ります。</p> | <p>一人一人の内面を理解し、温もりと厳しさを持って見守ります。</p> |

加盟登録方法

- 裏表紙の「登録申込票」に記入・捺印し、当支部へお送りください。後日、署名票・バッジ・資材等をお送りします。
- 毎年度ごとの更新となります。（学校の実情に合わせて加盟形態をお選びください）

加盟登録の流れ

| | |
|--|--|
| <p>新規登録</p> <p>登録申込票に記入し、公印を押して日本赤十字社栃木県支部へ郵送ください。（1部コピーして学校で保管願います。）</p> | <p>加盟継続・登録更新（1年毎）</p> <p>登録更新は、毎年、年度の始めに行います。登録申込票を送付いたしますので、日本赤十字社栃木県支部へご返送ください。</p> |
| <p>資材等の送付</p> <p>登録が完了すると、指導者手引きなど青少年赤十字関連資材をお送りします。</p> | |

加盟形態

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>1 全校加盟</p> <p>全児童・生徒が青少年赤十字のメンバーとなります。</p> | <p>2 児童・生徒会加盟</p> <p>児童・生徒会の役員だけが青少年赤十字のメンバーとなります。</p> | <p>3 学年または学校単位加盟</p> <p>特定の学年あるいは学級単位でメンバーとなります。</p> | <p>4 クラブ加盟</p> <p>クラブ（部・委員会）活動の一つとしてクラブ員がメンバーとなります。</p> |
|--|---|---|--|

- * 学校・幼稚園・保育所における青少年赤十字の採り入れ方については、定型はありません。
- * 学校教育活動の一環ですので、原則として、学校長（園長）の承認と担当していただく教師が必要です。
- * 活動を強要させたり義務を課せられることはありません。



青少年赤十字の資材を 活用してみませんか？

青少年赤十字の指導方法の取り入れ方や、実践例を掲載した指導者手引書などのほか、防災教育に特化した教材をご用意しています。是非、これらの資材をご活用ください。



● まもるいのち ひろめるぼうさい ●

生徒が主体的に取り組めるような「気づき・考え・実行する」を重視した「コミュニケーション力」「想像力」等を養う、防災グループワークプログラムを収録しています。

災害の写真・イラスト・映像や、被災を体験した方の作文なども収録されており、特別活動・総合・道徳のほか、各種教科でもご活用いただけます。

● ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん ●

間違い探しを楽しみながら、学習指導要領・幼稚園教育要領に定められた防災分野での高い学習効果を実現する教材を目指し作成された教材で、普段の生活の中に潜む危険なモノや人の行動を学び、災害時にとるべき行動を学ぶことができます。



● いへまですごろく ●

実際の災害現場では人々の協力がないと出来ないことが数多く発生します。この教材は、すごろくと同じくサイコロを振ってコマを進めていくもので、途中にはプレイヤー同士が協力し、救助を行わないと先に進めないマスがいくつか存在します。

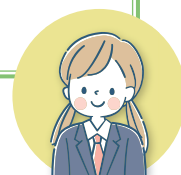
プレイヤー同士が協力してコマを進めることで、災害時の知識を学ぶことが出来ます。防災教育の最初の一歩としてご利用いただけます。



JRC活動は、人と人との繋がりを深く広いものにするための大切な活動です。多くの人と自分の考えを共有し、県内、県という枠組みを超えたりリーダーと関わることで新たな「気づき」を見つけられます。これまで、尊敬する多くのリーダーの背中を見てきたからこそ、今日の私は昨日の私より、人のため社会のために尽くせる人へ成長していると感じています。JRC活動を通して、自分の中にあった「人のために」という気持ちを全面的に出せるようになり、実行する力も培われました。

大変な活動であっても、いつかどこかで誰かのためになっていくと考えると、自然と笑顔になれます。そんな素敵な場所がJRCだと私は考えています。

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 会長
栃木県立小山西高等学校 深津 もこ さん



JRCの良さは、人との出会いが自分を変えるきっかけをもたらしてくれる点です。自分と人の価値観が違うからこそ、多くの考えが生まれ、様々な答えが導き出せます。そのため、積極的に発言し、「自分から」という精神で人のために何ができるのかを考え、行動できるようになります。こうした経験を通じて、一期一会の大切さに気付くことができます。



栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 副会長
栃木県立栃木女子高等学校 田辺 紬 さん

様々な人との関わり合い、これがJRCの魅力の一つだと思います。人には十人十色の考え方があります。これを活動の中で共有し合うことで自分を見つめることができます。そして、理解する。それを次の活動に活かし、そこでまた人と出会う。この繰り返しで自分の内面を成長させられます。これはJRCだからこそたくさんできる大切なことだと思います。

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会 議長
栃木県立宇都宮高等学校 宮本 歩夢 さん



指導者の声

栃木県立小山西高等学校
布川 裕美 先生

青少年赤十字は、人間の尊厳を守り、苦しんでいる人を救うという、赤十字の精神に基づいて、児童生徒が、命と健康の大切さを意識し、奉仕の気持ちを育み、地域社会や海外に目を向け主体的に気づき行動できるよう、学校教育の中でさまざまな機会を提供しています。それは、学習指導要領が目指す「生きる力」を育むために求められる、「自分ごととして『考え、議論する』道徳性」や、「社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力」の育成につながります。JRCの活動を通して子どもたちは、自分の考えをしっかりと伝えられるようになり、地域や社会に貢献する人の役に立つ人間になること心がけ、課題に気づき解決のために行動するようになります。変容していく子どもたちを目の当たりにできることは、指導者にとっても豊かな体験です。





青少年赤十字担当者研修会

青少年赤十字を取り入れた指導育成に関心がある方や、青少年赤十字加盟校において青少年赤十字をご担当される方などを対象として開催している研修会です。国際人道法や防災教育、心肺蘇生とAEDについての講習、学校での活動実践例の紹介等を行っています。

防災教育指導者養成研修会

日本赤十字社が作成した青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を用いて、実際の授業での展開例の紹介やグループワーク体験等を行います。

各学校における防災教育の普及を目的としています。



青少年赤十字指導者研究会

赤十字が主催する研究会や国際交流事業などに参加した指導者からの参加報告や、今後の活動について、研究協議を行っています。指導者の交流を通して青少年赤十字に対する意識の高揚を図ることを目的としています。

栃木県青少年赤十字指導者協議会について

青少年赤十字加盟校の教師で組織し、各地域での青少年赤十字の運営、活動、指導等について協議を行っています。

加盟と同時に青少年赤十字指導者協議会に加入していただき、協議会活動の運営のため、高等学校のみ一校あたり年会費3,000円を納めていただくことになっています。





リーダーシップ・トレーニング・センター

夏休みに開催する青少年赤十字の最も特徴ある宿泊体験プログラムです。赤十字や青少年赤十字の歴史、赤十字の基本原則、国際人道法についての学習の他、救急法、フィールドワーク、活動計画づくりなどバラエティに富んだ内容となっています。



青少年赤十字大会

県下の幼稚園・保育所、小・中・高等学校や特別支援学校の青少年赤十字メンバーの代表が一堂に集まり、自分たちの活動発表、交流などを行っています。長年の活動に対する表彰も行っています。



日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字メンバー、指導者を海外に派遣し、現地の青少年赤十字メンバーとの交流等を行います。実践目標の1つである「国際理解・親善」を図ることを目的としています。



青少年赤十字高等学校連絡協議会の活動

栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会は、青少年赤十字に加盟する高等学校の生徒によって組織され、各種行事を行っています。栃木県内にとどまらず、他県のメンバーとの交流も盛んに行っています。



新入生歓迎会

新しく入部したメンバーに対して青少年赤十字を紹介する会を開催しています。



夏季大会

協議会の役員を選挙によって決定し、新体制をスタートさせる大会を開催しています。



海外たすけあい 街頭募金

宇都宮市のベルモールにおいて募金活動を実施しました。



高等部リーダー研修会

各学校の活動を一層促進させるために、リーダーとなるメンバーを育成しています。



冬季大会

高等学校連絡協議会が行う各種活動の報告を中心に開催しています。





福島県・栃木県高等学校 連絡協議会交流会

福島県青少年赤十字メンバーとの交流をとおして、気づきを得て、新たな自主活動につなげることを目的としています。



特別研修会

協議会役員の発案によりアイスブレイクの研修を実施しました。



「踏跡」の発行

高等学校連絡協議会の活動報告と加盟校の活動紹介などを掲載している機関誌です。



茨城県・栃木県高等学校 連絡協議会交流会

両県のメンバーが一堂に集まり、親善を深めるとともに、青少年赤十字の一員として意識を高め今後の活動の励みとすることを目的とし、開催しています。



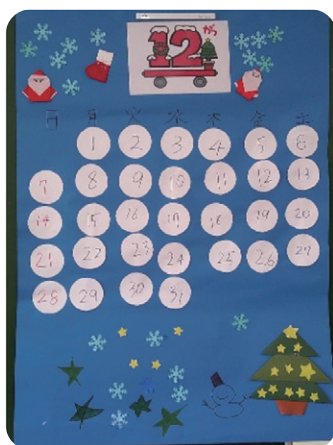
▶▶▶ 那須烏山市立七合小学校 ◀◀◀

那須烏山市立七合小学校は、昭和47年に4校が統合して開校し、54年を迎えました。那須烏山市の北部に位置し、近くには清流那珂川が流れており、豊かな自然に恵まれた学校です。本校では、児童が企画運営する里山体験活動を実施しています。地域に出かけ、地域の自然に触れ、自分の住んでいる地域のよさに気付くことをねらいとしています。縦割り班でネイチャーゲームを行い、五感で自然を感じ、心と体で自然に親しんでいます。

主な青少年赤十字活動としては、福祉委員会が中心となった奉仕活動が挙げられます。社会福祉施設（敬愛荘）へ手作りのカレンダーを毎月贈り、交流を図っています。児童はお年寄りに喜んでもらえるよう、毎月工夫を凝らしたカレンダーの作成を行うことができました。また、全家庭にアルミ缶回収を呼びかけ、アルミ缶つぶしの活動を通して、ボランティアの精神を育てています。アルミ缶回収は協力的な家庭が多く、今年もたくさん集めることができました。さらに、募金活動を校内で行いましたが、多くの児童や教職員が協力してくれました。

これからも、交流活動や奉仕活動等の体験的な実践を通して、思いやりや連帯感、協調心などの豊かな心の育成を目指していきたいと思ひます。

社会福祉施設へ送る手作りのカレンダー



アルミ缶回収作業の様子



募金活動



青少年赤十字加盟校では、教師を指導者とし、学校教育の一環として、日常生活のなかで望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的とし、学校の実情にあわせた活動を展開しています。



栃木県立馬頭高等学校

本校は八溝の山並みに囲まれ、武茂の清流を眺望する高台に位置し、豊かな自然環境に恵まれた場所にあります。この高台は「古館ヶ丘（こだてがおか）」と古くから呼ばれ、学校祭、生徒会誌の名称や生徒を顕彰する際の賞名としても使われています。

本校は令和6年度より、普通科1クラス、水産科1クラスの2クラス編成の小規模特例校となりました。地元那珂川町との連携という強力なバックアップのもと、県内公立高等学校の中で最も規模が小さいことをむしろ強みに変えています。「向学・礼儀・勤労」の校訓を核とした伝統を継承しつつも、地域学や水産科の活動に代表される新しい取り組みに挑戦し、活力と希望に満ちています。本校の卒業生は1万2千名を超え、普通科卒業生は地域を支える原動力となり、水産科卒業生は県内外の水産業の担い手となっています。令和8年度には創立80周年を迎えます。

令和7年度、ボランティア部は3年生2名、2年生5名、1年生2名の計9名で活動しています。地域とのつながりを大切に、地域に根差した活動を実施しています。

主な活動を写真で紹介します。

○馬頭図書館おはなし会 絵本や紙芝居、工作



○防災教室のサポート



○こどもまつり



○小砂里山体験事業



○古館祭 ポッチャ体験



ボランティア部の活動が内外に周知され、多くの皆様からお声かけをいただくようになりました。今後、生徒数やボランティア部員数が減少していく中で、活動が続いていくように努めたいと思います。



